

## 三重大学伊賀研究拠点創設の辞

三重大学大学院生物資源学研究科

教授 前田 広人

伊賀市は合併を期に、それまでの念願であった高等教育機関の誘致を決意しました。そして、誘致する高等教育機関を通して、市民の文化的啓発と地域企業との共同研究の促進を希求してきました。一方、三重大学は大学の中期計画の中で、確固たる地域圏大学の確立をめざして、地域活性化のための連携融合事業を行うことを目標に掲げて参りました。この両者の夢が合致し、結実したのがこの伊賀サテライトキャンパスです。

ここでは大学と伊賀地域が連携して、環境と食と文化に関する新産業の育成を図るとともに、文化的啓発活動を通して、地域活性化に貢献することを目的としています。これまで大学が地域と連携してきた経験の長所と短所を検討し、大学関係者以外にも理解されやすく、そして多くのひとびとに平易にアクセスされる研究施設を目指します。多くの関係者の関心と支持によって、この研究施設が活用され、さらなる伊賀地域の飛躍に貢献できることを願っております。

---

## 次世代勢水丸が進水しました

勢水丸船長 内田 誠

まもなく勢水丸は、生物資源の枠を超えた海洋資源や地球環境の分野にも対応できる練習船に生まれ変わります。昨年からの詳細設計に続き、新年度早々の起工式以降船殻構造加工を経て、9月には命名・進水式を迎えることができました。この先、内艙装工程に入り、各種性能試験を経て来年1月に竣工となる予定です。新勢水丸は、従来の各種生物採集機能を保持し、且つ採集しながら海洋環境も測定することができるようになって採取試料の精度と質の向上が期待できるほか、現船にはなかった大気観測設備を新たに設けて精密な気象観測装置や大気吸引、分析装置によって地球環境分野での教育・研究にも貢献でき、更にこれら全ての観測情報は、船内各機器に張り巡らせた船内LANによって航海情報、機関情報などとともに、海洋ブロードバンドにて学内研究室へ発信する能力を備え、10年、20年先においても、教育・研究の最前線で活躍できる練習船を目指しています。